



【2024年度】 テレワーク最新技術動向研究部会 活動報告

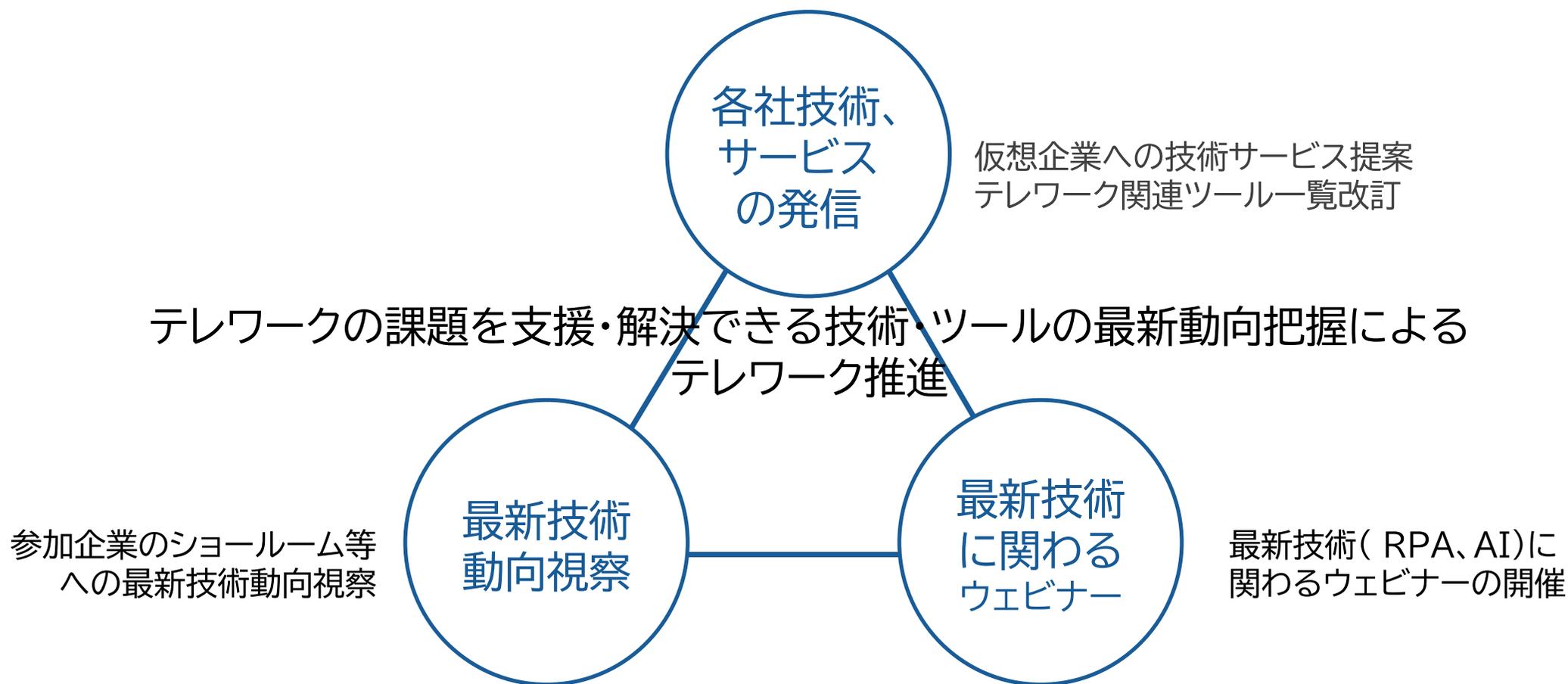
一般社団法人日本テレワーク協会
テレワーク最新技術動向研究部会

1 部会の目的

テレワークの課題を支援・解決できる技術・ツールの最新動向把握によるテレワーク推進

テレワークの課題を支援・解決できる技術・ツールの最新動向を、ユーザ及びベンダ双方の視点を持って、発表・議論等を行うことで、テレワークの定着・進歩に繋げることを目的とする。

2 2024年度の主な活動



3 部会構成

【部会長】 藤森 譲(株式会社Welfeed)

【副部会長】 宮脇 大祐(株式会社MCセキュリティ)

【事務局】 尾崎 慎也(日本テレワーク協会)

【部会員】 一覧参照



No	氏名	所属組織名
1	加藤 悠也	株式会社アルファシステムズ
2	白井 靖人	株式会社アルファシステムズ
3	磯崎 星	株式会社Welfeed
4	佐藤 峻介	株式会社Welfeed
5	後藤 祐一郎	エヌビディア合同会社
6	富田 友樹	オーエス株式会社
7	三輪 明日翔	oVice株式会社
8	天間 晃彦	株式会社コミット
9	市川 勇次	株式会社コミット
10	佐藤元昭	株式会社コミット
11	久保田祐樹	株式会社コミット
12	三浦 拓馬	NPO法人地域産業おこしの会
13	湯田 健一郎	株式会社パソナ
14	井口 大	ビーウィズ株式会社
15	酒井 匡	ビーウィズ株式会社
16	早川 智子	ビーウィズ株式会社
17	東郷 剛	株式会社レコモット
18	奥 敬祐	日本テレワーク協会
19	村田 瑞枝	日本テレワーク協会
20	岩田 祐一	日本テレワーク協会
21	吉田 英樹	日本テレワーク協会
22	梶原 京子	日本テレワーク協会

4 実施概要

実施回	開催予定日	アジェンダ
第1回	10月9日(水)	(1)NTTe-City Labo見学、質疑 ～中小企業部会と合同開催～ (2)部会説明、自己紹介、テーマ選定
第2回	11月21日(木) 13:00～15:00	(1)仮想企業への提案① (2)最新技術動向講義(AI様)
第3回	1月16日(木) 15:00～17:00	(1)ビーウィズ様センターツアー (2)仮想企業への提案(各社発表①) (3)懇親会(新年会)
第4回	2月25日(火) 15:00～17:00	(1)最新技術動向講義(RPA) (2)仮想企業への提案(各社発表②)
第5回	4月18日(金) 15:00～17:30	(1)仮想企業への提案(全体発表) (2)NTTビズリンク様ご紹介 (3)懇親会

5 実施詳細① 仮想企業への提案

テレワーク推進に際して直面する各種課題に対して、
各社の技術／サービスをいかに提案できるか仮想企業向けに企画提案
公開コンテンツ：https://japan-telework.or.jp/tw_info/tech_top/

【技術部会】仮想企業ペルソナ案

仮想企業プロフィール

①会社名：株式会社テックテル(Tech Tel Ltd.)
②事業：製造業
③従業員数：80名
④本社：東京都内(市内)向け工業製品の製造・設計・製造、販売
⑤拠点：現在は市内拠点1箇所(本社、工場、営業拠点)
⑥テレワーク推進の状況
・人口減少地域とあり、必ずしも本社でのテレワーク推進は導入
・業務拡大に伴い、新規拠点は市内のみならず郊外にも必要
・設計、販売、営業はテレワークを導入
・一方、製造部門、製造部門内のテレワーク導入はほとんどできていない
・従業員数は今後3年間で300名とする予定、うち50名は海外現地採用予定

経営者／管理者の課題／悩み

①業務拡大に伴い、テレワーク推進の必要性
②経営者から、職能導入による生産性向上
③人材確保、新規拠点に伴う労務管理の負担
④従業員に対するテレワーク推進の啓蒙
⑤テレワーク推進が実現する際の生産性向上
⑥テレワーク推進が実現する際の生産性向上
⑦テレワーク推進が実現する際の生産性向上

担当者の課題／悩み

①テレワーク推進が実現する際の生産性向上
②テレワーク推進が実現する際の生産性向上
③テレワーク推進が実現する際の生産性向上
④テレワーク推進が実現する際の生産性向上
⑤テレワーク推進が実現する際の生産性向上
⑥テレワーク推進が実現する際の生産性向上
⑦テレワーク推進が実現する際の生産性向上

テレワーク最新技術動向研究部会

テレワーク最新技術動向

～テクノロジーで革新するワークスタイル～

テレワーク最新技術動向研究部会（略称：技術部会）は、テレワークの課題解決を支援する技術やツールの最新動向について、ユーザーとベンダー双方の視点から発表・議論を行い、テレワークの定着と進化を目指して活動しています。本コンテンツでは、テレワーク最新技術動向（各年度の部会活動内容）をご紹介します。皆さまのテレワーク推進や働き方DX促進の参考にいただければ幸いです。

INDEX

[【2024年度】仮想企業への提案 ～製造業のテレワーク推進お悩み解決～](#)

仮想企業ペルソナ設定

各社企画提案発表

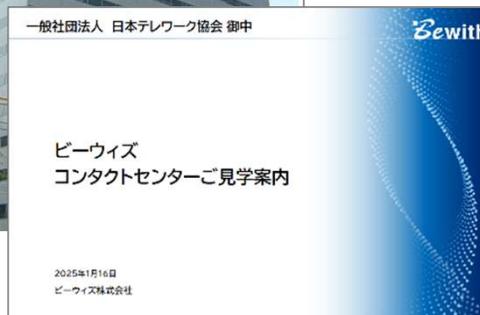
報道発表コンテンツ公開

6 実施詳細② 最新技術動向視察

参加企業のショールーム等への最新技術動向視察



NTT東様
e-city Labo見学



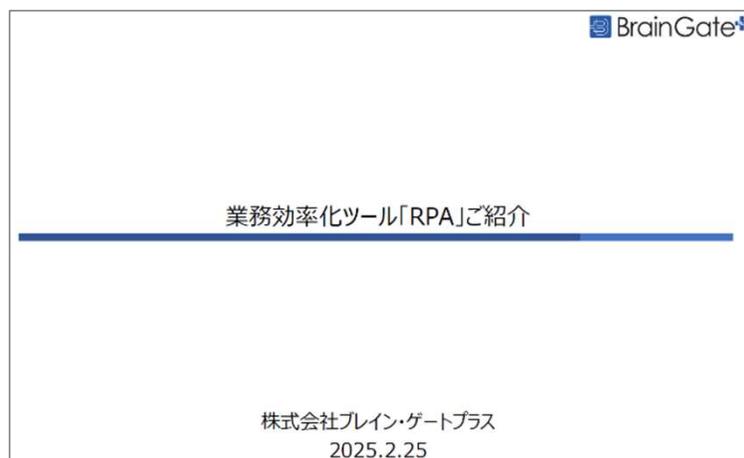
ビーウィズ様
コンタクトセンターツアー



NTTビズリンク様
働き方改革取組紹介

7 実施詳細③ ウェビナー

最新技術(RPA、AI)に関するウェビナーの開催



ブレイン・ゲートプラス様
(RPA)



AMBL様
(AI)

8 実施詳細④ テレワーク関連ツール一覧改訂

2024年度ご参加企業の製品、サービス等を取込み改訂



テレワーク関連ツールの特徴比較

システム方式

図表 3-1 では、デスクトップPCにネットワーク経由で接続する代表的な方式について5つに区分して記載している。1～5のいずれの方式で接続するかについては、テレワークの形態や社内の業務システムの形態、セキュリティポリシーに沿って検討する。例えば、在宅でのテレワークでは、リモートデスクトップ方式、リモートデスクトップ方式（クラウドアプリ利用方式）で提供されるグループウェアを利用するなど等を検討する。

図表 3-1 システム方式

No.	ツール	概要	特徴	製品例
1	リモートデスクトップ方式	社内の通常のPCに接続した等からリモートデスクトップ方式（遠隔操作）が実現可能なPCで実行される。社内のPCにソフトウェアをインストールすることで接続が可能であり、移動デスクトップ方式と比較して、導入コストが低い。既存のPCやタブレットを活用することで1社あたり月額100円～1,500円程度のコストで、導入可能。	すべてタブレットやスマホからの接続・利用も可能。	TeamViewer、AnyDesk、Splashtop Business/スプレッドシート、Remote View、ZDPlayer、DeMille、韓国日立ソリューションズ・クリエイト、CAQWTO リモートデスクトップ Box/Jan ネットワークス、alibaba TeamViewer/阿里云ファンシステムズ
2	仮想デスクトップ方式	サーバー側の仮想PCにリモートログインする方式（遠隔操作）。仮想PCで実行される。仮想システムの構築が必要であり、計画的な導入が必要となる。サーバーに集中した場合の運用の負荷が大きい。保護が必要。S1ベンダー等に導入を依頼する必要がある。製品は、Amazon WorkSpaces のようにクラウドサービスとして1社から提供しているものも出てきている。サーバー側での一元管理を重視する場合には導入を検討する。管理コストは高くなることから、中堅・大企業での導入事例が多い。	すべて	Citrix、Redhat/ストリックツ・システムズ、ジャパコ、VMware Horizon、R/ワイエムウェア、Microsoft 365/日本マイクロソフト、Amazon WorkSpaces/アマゾンウェブサービスジャパン、Groove、Microsoft SQL Server
3	クラウドアプリ利用方式	業務システムが SaaS や PaaS で構築されている場合にブラウザアクセスのみで接続を行う。但し、多くのシステムではファイルのダウンロード機能が限られており、ブラウザのキャッシュも無効なことから、PC 接続時の対応は必要となる。	すべて	特定の各種ツールが該当するもの
4	安全ファイル共有方式	接続ファイルを外部PCに安全に保持して共有を行う方式。接続は非対称で実行されるが、接続タイプは、接続先のメモリ等に書き込み、あるいは接続先が接続先を保持していることで、安全性が高い。	すべて	CAQWTO、SecurContainer/Jan ネットワークス、Microsoft/OneDrive/ワンドライブ、File Mark Place/澤ノリクス、ZDM/For PC/澤ノリクス、V-Recover/アルファシステムズ
5	ファイル共有方式（内外接続）	社内で実行しているPCやタブレットを社内に接続する。あるいは、クラウドストレージや共有して社内のPCに接続する。クラウドストレージや共有して社内のPCで接続する。あるいは、クラウドストレージや共有して社内のPCで接続する。あるいは、クラウドストレージや共有して社内のPCで接続する。	すべて	Dropbox、Google ドライブ、Box、OneDrive 等のクラウドストレージ、Pakkit/パケットワークス、Netdisk/ネットディスク、Netdisk/パケットワークス、Netdisk/パケットワークス

リモートデスクトップ方式

リモートデスクトップ方式のサービスでは、接続を継続するサーバが必要であり、サービスが使用できない場合に損失する時間・人件費等を勘案すれば、特にサーバの稼働・安定性を重視する必要がある。リモート WOL 機能を利用した場合、社内 PC への電源投入を外部から可能にし、電気を節約できる。その他、それぞれの価格・特徴・試用時の画面更新スピード等を検討して選択を行う。※リモート WOL 機能は、ネットワーク経由での PC の電源投入機能。

図表 3-2 リモートデスクトップ方式の仕組み

図表 3-3 リモートデスクトップ方式の導入例

No.	製品名	メーカー	特徴	価格	納期
1	Mobile Connect	富士通	2024 年のサービス開始以来、トラブルによる停止の発生がない。	初期 15,000 円、年額 18,000 円	約 1 週間
2	Splashtop Business Pro	スプレッドシート	画面を最適に転送・操作する機能を搭載。但し、本プランは 3D フォーム等、Web 対応、リモートマイク、マルチモニタ、外部ディスプレイ対応。	月額 12,000 円、年額 144,000 円	即日
3	Remote View	ZDPlayer	接続速度 (25Mbps) から利用可能。接続先 PC の接続速度を一度に確認。Web 対応、リモートマイク、マルチモニタ、外部ディスプレイ対応。	月額プラン 1,100 円 / 月、年額プラン 12,000 円 / 年	3 営業日
4	DeMille	日立クリエイト	接続先セキュリティに紐じて導入の容易性を重視している。Web 会議は標準のみ。Web サービス、画面共有、音声通話、リモートマイク、外部ディスプレイ対応。	初期：12,000 円 + 1,200 円 / ユーザー / 月、月額：21,600 円 / ユーザー	3 営業日
5	CAQWTO リモートデスクトップ Box	e-Jan ネットワークス	専用ネットワークを社内 LAN につなぐだけで導入可能。Web ブラウザからアクセスするので、遠隔の社内環境からアプリのインストールは不要。	初期費用 0 円、月額 1,500 円 / ユーザー	最大 5 営業日

9 おわりに

2025年度部会開催に向けて参加者絶賛募集中です！

会員メール等でご案内しておりますので、是非お申込みください。
(7/11申込期限)



アフター部会
も随時開催し
ております！



↓お申込みフォームはこちら

